

虹の架け橋菊川小笠教室で働くOB・OGたち

同教室は、日本語を母語としない定住外国人の小中学生の日本語初期支援教室として、2010年に内閣府（運営・国際移住機関）の委託事業で始まり、15年の1年間は県の委託、16年からは菊川・掛川・御前崎3市の協議会の委託を受けて、運営している。

そこで、24年9月から同教室のOG（女子卒業生）のユミ（10代のフィリピン人、仮名）さんが、25年4月からOB（男子卒業生）のリアン（20代のブラジル人、仮名）くんが働いている。私達が数年前から望んでいたスタッフが、いよいよ誕生した。ユミさんは、タガログ語とビザヤ語、英語、日本語を熟（こな）し、リアンくんはポルトガル語とイラン語、英語、日本語を熟す、共にクワドリンガルである。

日本語の初期支援と言っても、ひらがなやカタカナ、小学校1年生程度の漢字を教え、学習言語に専門用語も指導する。特に学習言語や専門用語は、翻訳の助けがあれば、覚えが早い。また、算数・数学は国によって計算の仕方や違う。そして、東京外語大の小島先生が25年6月9日のNHKニュースーンで言われた通り、母語で考え、日本語に翻訳して答えれば、読解力もつく。だから、特に学習言語や専門用語は、通訳があれば学びが早くなる。しかも、児童・生徒達にとっては格好のロウモデルである。

学校生活や日本での保護者の生活の仕方を教える「保護者会」では保護者への通訳は勿論、児童・生徒達のみならず保護者にも、ロウモデルとして自身がどのようにして日本語を覚え、どのようにして小学校や中学校、高等学校で、学習、生活してきたかを語ることは、最も効果のある指導である。

二人とも子ども達に寄り添い、子ども達の気持ちや疑問も聴きながら、通訳も交えて的確に指導してくれている。

同教室のホームページの写真を見て頂きたい。笑顔の子ども達に囲まれ、二人とも年齢も近いこともあり、教室の子ども達にとっても親しまれている。

<https://nijinokakehashi.studio.site/>

私達は、こうしたOB・OGをスタッフとして採用し、日本語の初期支援や教科指導の研修を行っていきながら、いずれはこの教室の運営を担ってもらいたいと目論んでいる。